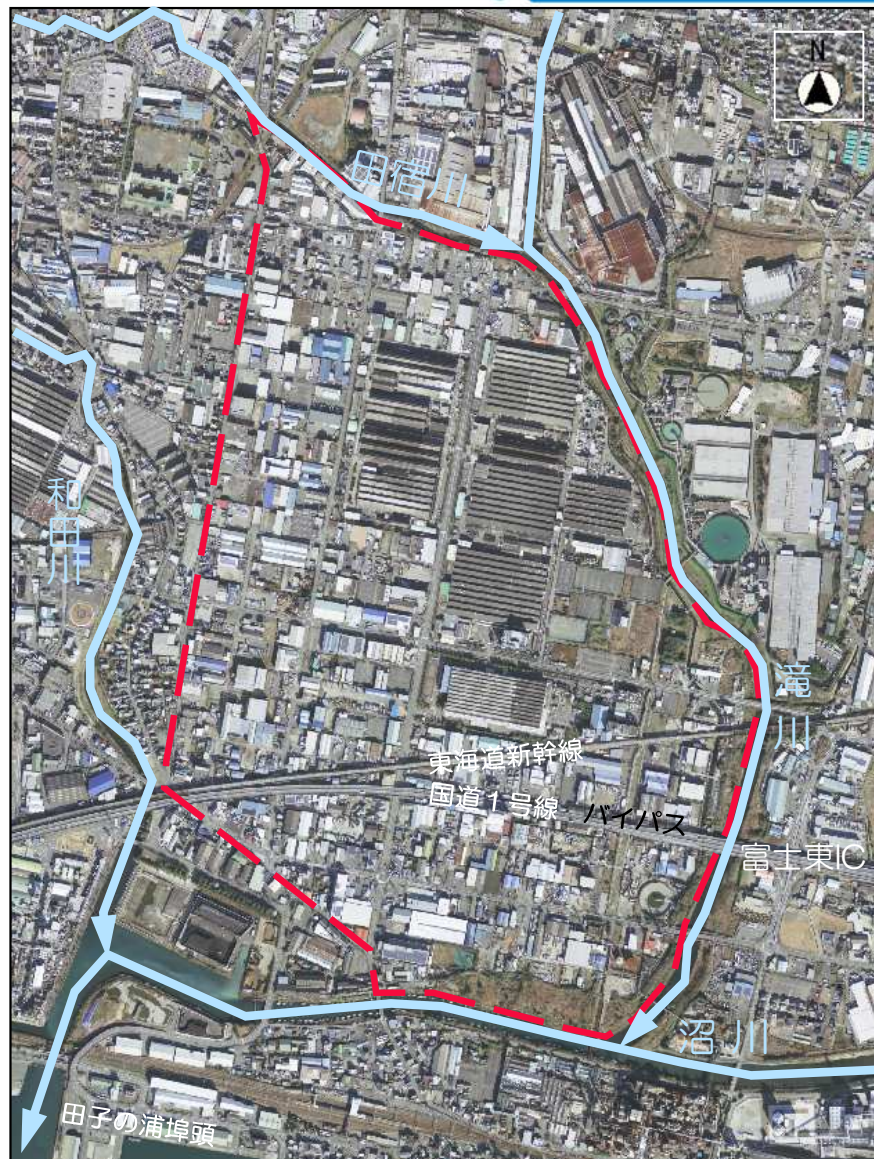


1. 沖田地区について



○ 沖田地区の事業区域

事業区域は、滝川の流域かつ、浸水が常襲化している赤枠の区域を対象としています。

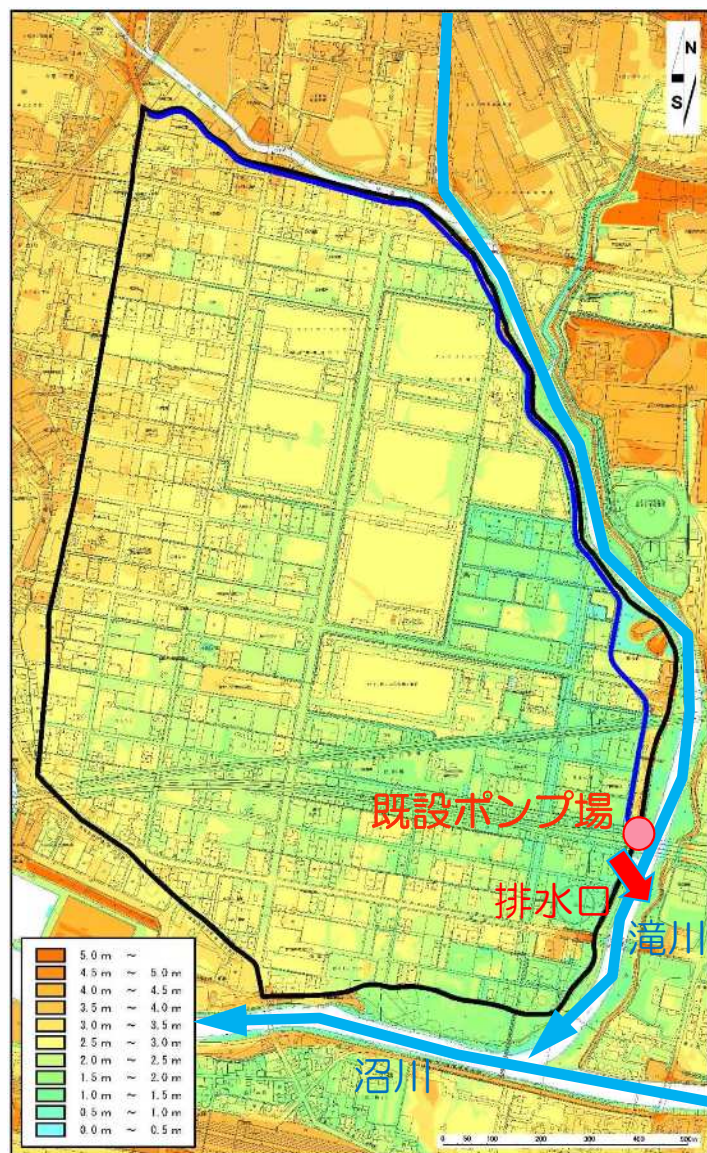
区域面積：約168ha

用途地域：工業専用地域

全方位が一級河川(静岡県管理)に囲まれている

(田宿川・和田川・滝川・沼川)

1. 沖田地区について



○ 沖田地区の地形

標高：0.5m~3.9m

- 標高が低く地区内水路の勾配は1%未満と平坦
- 地区内の地盤高は、滝川の高水位よりも低い

○ 沖田地区の排水方法

- 地区内の排水は滝川への自然放流（2箇所）
- 既設ポンプ場（1.1m³/s）の強制排水

○ 沼川について

- 感潮河川で潮位の影響を受ける
- 潮位影響は沼川・滝川も受ける

2.浸水状況と原因について

○ 浸水シミュレーションによる再現結果



○ 沖田地区の浸水原因について

浸水シミュレーション結果により、沖田大通りを境に東西で浸水原因が異なることが判明しました。

地区	浸水原因
西側	<ul style="list-style-type: none"> ・水路流下能力不足による溢水 ・集水不良による冠水
東側	<ul style="list-style-type: none"> ・水路流下能力不足による溢水 ・内水浸水による湛水 ・滝川水位の上昇による放流不能

(西側地区の浸水原因)

浸水域と標高の関係は少ないことから、水路の流下能力不足と水路への集水不良が主な原因と考えられます。

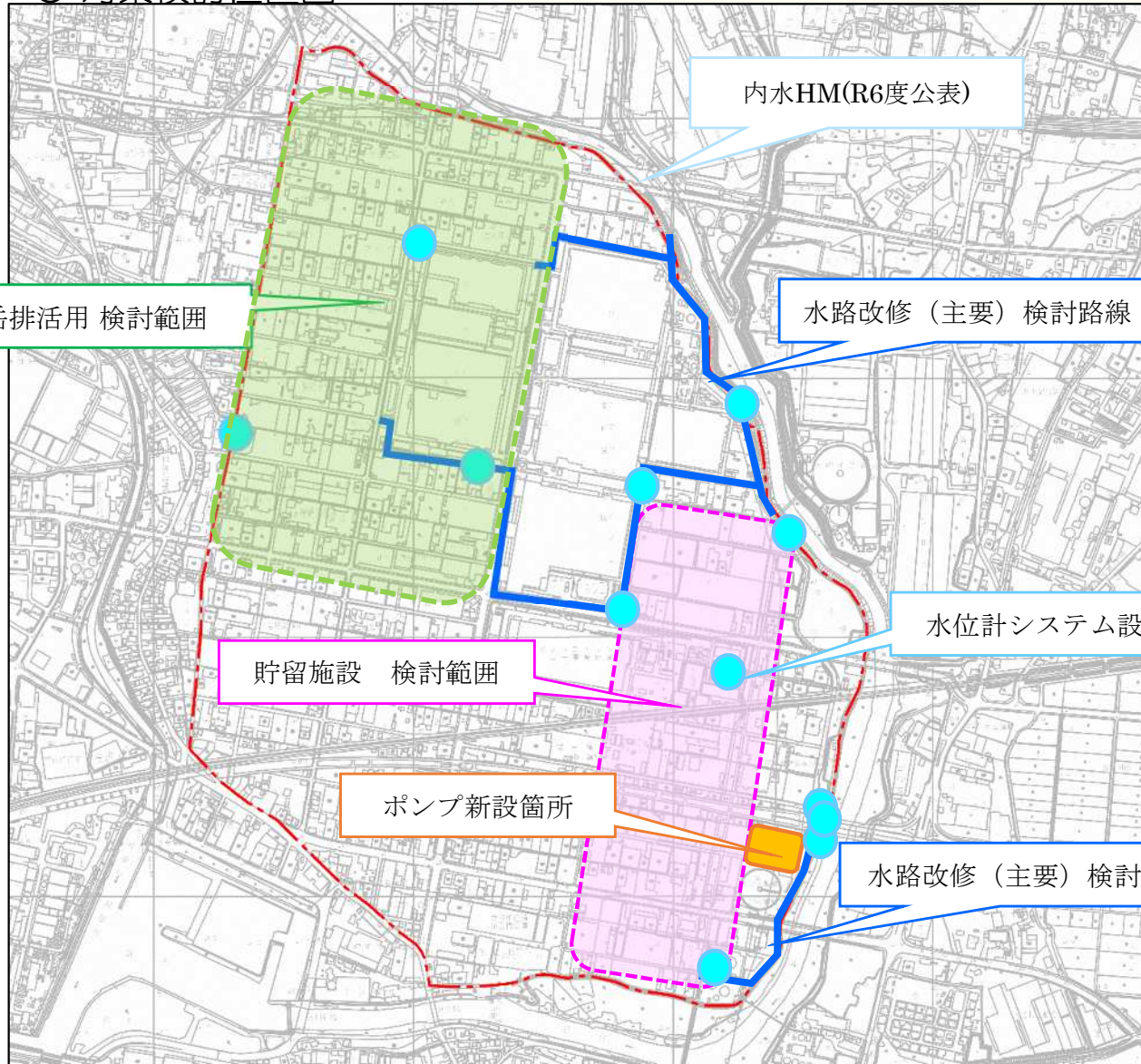
また、下流（東側地区）が浸水しているため、水路の水が流れないことも要因と思われます。

(東側地区の浸水原因)

浸水域と標高の関係が強く、上流（西側地区）から流れてくる水を滝川へ排水できないことから、標高の低い土地へ溜まってしまっています。このことから、滝川への排水能力不足が主な原因と考えられます。

3.対策事業の概要について

○ 対策検討位置図



現在、想定している対策予定位置は左図のとおりとなります。

なお、ポンプ新設以外の対策は検討中であることをご承知おきください。

(ハード対策)

○ 水路改修(主要)検討路線

○ ポンプ新設箇所

○ 岳南排水路の活用検討

○ 貯留施設の検討

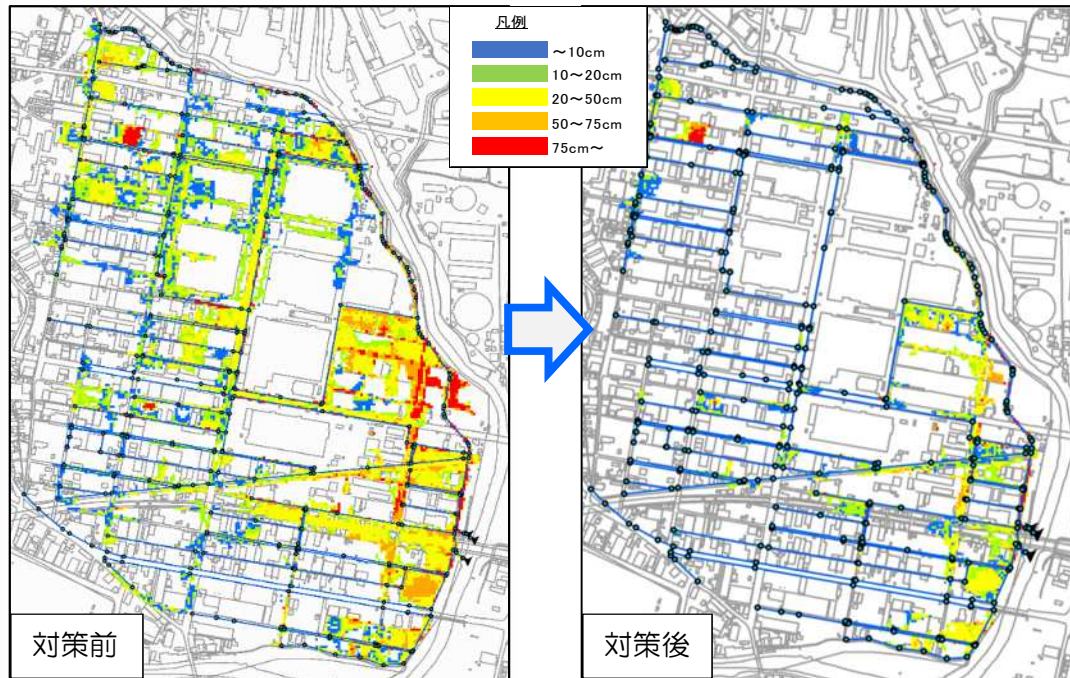
(ソフト対策)

● 水位計システム設置(公表予定)12箇所

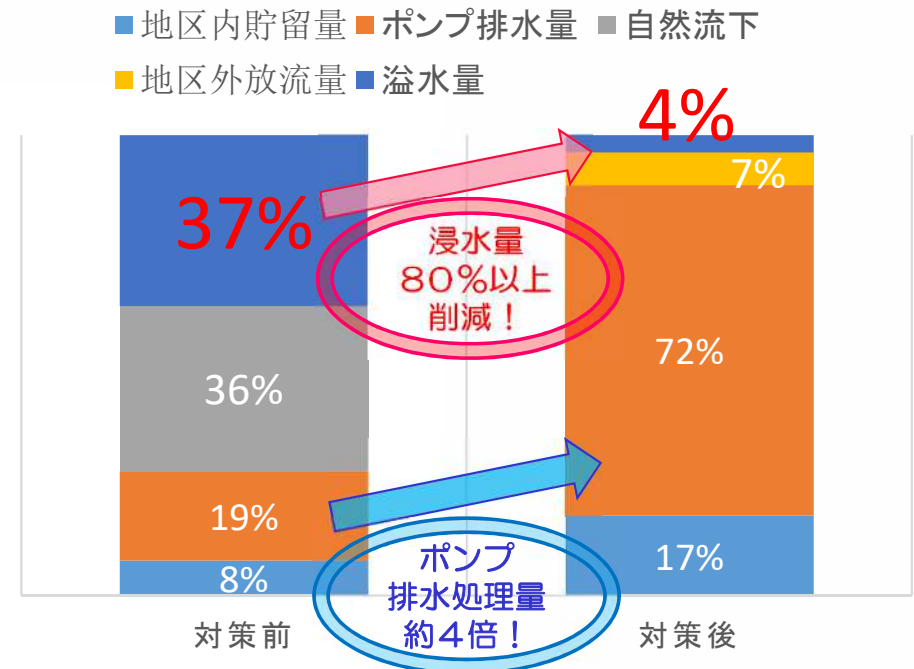
内水ハザードマップ
(令和6年度公表)

3.対策事業の概要について

○ 中期 対策前・後のシミュレーション結果 (H26.10.6 台風18号)



○ 中期対策前・後の地区内総降水量の処理先 (H26.10.6 台風18号 降雨)



○ 対策期間について

	短期的対策 概ね5年以内	中期的対策 (機能保全水位) 概ね10年以内	長期的対策 (浸水ゼロ)
水路改修	→		
ポンプ新設	準備	工事	
流出抑制	→		

最も浸水効果が高いポンプ新設を優先し、短・中期的な対策で機能保全水位（浸水深さを20cm未満とする）の確保を目指します。

なお、公共事業による河川整備には、費用、期間、周囲への影響から事業対策規模を定め、整備を進める必要があります。

本事業の対策規模は、7年確率降雨です。

対策規模以上の降雨への対応は、あらゆる関係者との協働により、浸水軽減を図ることとしており、長期的に浸水ゼロを目指します。

4. 雨水ポンプ場の新設について



○ ポンプ場の新設予定地について

- 排水先である滝川の河川管理者（静岡県）と、平成29年より協議を行っており、令和4年10月にポンプ排水量5m³/秒を滝川へ放流する了承を得ました。
- 既存ポンプ場では、約5倍の排水能力があるポンプ場の整備が出来ないため、新たな用地が必要になります。
- 当該地は標高が低く、地区内の水が集束されることから排水に適しています。
- 事業費が多額となり、市の財源のみでは事業推進は難しいため、国からの補助金を使用していかなければなりません。
- 雨水ポンプ場の新設事業を行うため、都市計画法及び下水道法の法的手続きが必要となります。
- ポンプ場新設工事の開始は、令和10年度以降を想定しております。